



喜多の埜

北ヤードの工事始まる

過ぐる先月三十一日。最後の一等地とも呼ばれる、大阪駅北地区、通称北ヤードの再開発工事の地鎮祭が執り行なわれました。

これまで大規模な再開発といえは官主導が殆どでしたが、この再開発は民間十二社による民主導の再開発としても注目されています。北ヤードは大阪市北区大深町の大部分である二四ヘクタールもの土地を占め、江戸時代には梅田墓地という墓地でしたが、そこを国が買い上げ、国鉄の梅田貨物駅として利用されたところでした。昭和六十二年(一九八二)に、国鉄が民営化されJRになったのを機に、赤字解消のため梅田貨物駅の土地売却を決定。その後、様々な再開発の構想が練られました。が、バブル崩壊による景気後退で再開発事業そのものが中断。

跡地売却決定から十九年後の平成十二年(二〇〇一)になってようやくヨドバシ梅田店が鉄道管理局跡地に進出した事により、再開発の機運が再び見え、その後、容積率の緩和措置や、更に産学官による開発など、開発の手法そのものにも大きな変化があり、開発を第一期、第二期と分け、先月より始まった工事はこの先行開発地域(第一期)の工事になります。本当に長い長い道のりを経て、今から三年後の平成二五年(二〇一三)に先行開発地域(第一期)の街開きが予定されています。

奇しくも伊勢の神宮の式年遷宮の年でもあり、神さまの御力で日本が若やぎ、大阪の明日への魁たる開発となる事を祈るばかりです。

入学式

今年度から新入生となられる子供たち。またその親御さんらにとられてまして、入学式は特別な日なのではないでしょうか。

この入学式ですが、そもそもの始まりは明治五年(一八七二)八月三日の学制制定から、明治八年頃までに創立された小学校で執り行なわれたのが最初と考えられています。しかしその頃の小学校は大きめの寺子屋といった感じのところが多かったようですので、入学式といっても、事務的な手続きだけのところが殆どでした。

現在のように儀式的な形式をとるようになったのは明治二十三年に発布された「教育勅語」の影響と、明治二十四年に発布された「小学校祝日大祭日儀式規定」によるものと考えられています。この規定などをもとに、入学式の儀式なども定まっていたようです。当時、明治天皇をはじめ、国、町が教育による「日本の明日」にどれほどの期待を込めていたのかが分かります。

海外の先進国では未だに入学式が無い国もある中、凜然とした雰囲気で行なわれる日本の入学式は正に日本の美意識の一つであるように思えてなりません。

阪急電鉄 開業百年

先月三月十日。阪急電鉄(旧箕面有馬電気軌道)が開業してから百年となりました。百年前の梅田は主に中規模工業が主体であり、商業地として大きな発展を遂げたのはやはり阪急電鉄の影響が強かったようです。これからの益々の社業の発展を期待したいものです。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

